

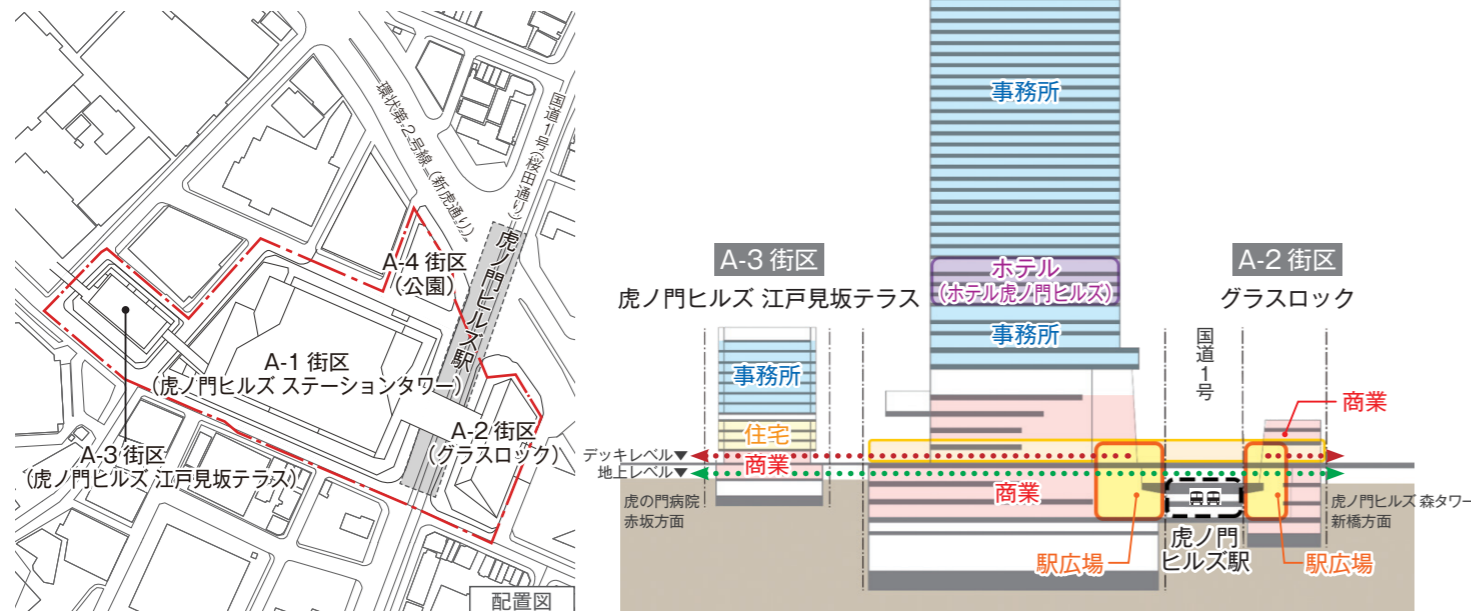
計画の概要

名称	虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業			
区域面積	約 2.2ha			
街区区分	A-1 街区 (虎ノ門ヒルズ ステーションタワー)	A-2 街区 (グラスロック)	A-3 街区 (虎ノ門ヒルズ 江戸見坂テラス)	A-4 街区 (公園)
敷地面積	約 9,908㎡	約 2,445㎡	約 1,611㎡	約 770㎡
延床面積	約 236,640㎡	約 8,800㎡	約 8,100㎡	—
階数	地上 49 階 / 地下 4 階	地上 4 階 / 地下 3 階	地上 12 階 / 地下 1 階	—
高さ	約 266 m	約 30 m	約 59 m	—
主要用途	事務所、店舗、ホテル、 情報発信拠点、駐車場等	店舗、駐車場等	事務所、住宅、 店舗、駐車場等	公園
駐車台数	280 台	3 台	25 台	—

事業の経緯と今後の予定

○ 事業の経緯

2016年 2月	虎ノ門一・二丁目地区市街地再開発準備組合設立 日比谷線新駅（虎ノ門ヒルズ駅）工事着工
2018年 3月	国家戦略特別区域における区域計画の内閣総理大臣認定 (都市再生特別地区、地区計画（再開発等促進区）、市街地再開発事業)
11月	虎ノ門一・二丁目地区市街地再開発組合設立認可
2019年 3月	権利変換計画認可
2019年 11月	A-1 街区 建築工事着工
2020年 9月	A-2 街区 建築工事着工
2021年 4月	A-3 街区 建築工事着工
2023年 7月	A-1 街区、A-3 街区 建築工事完了
2024年 7月	A-2 街区 建築工事完了



虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業



施行地区の概況

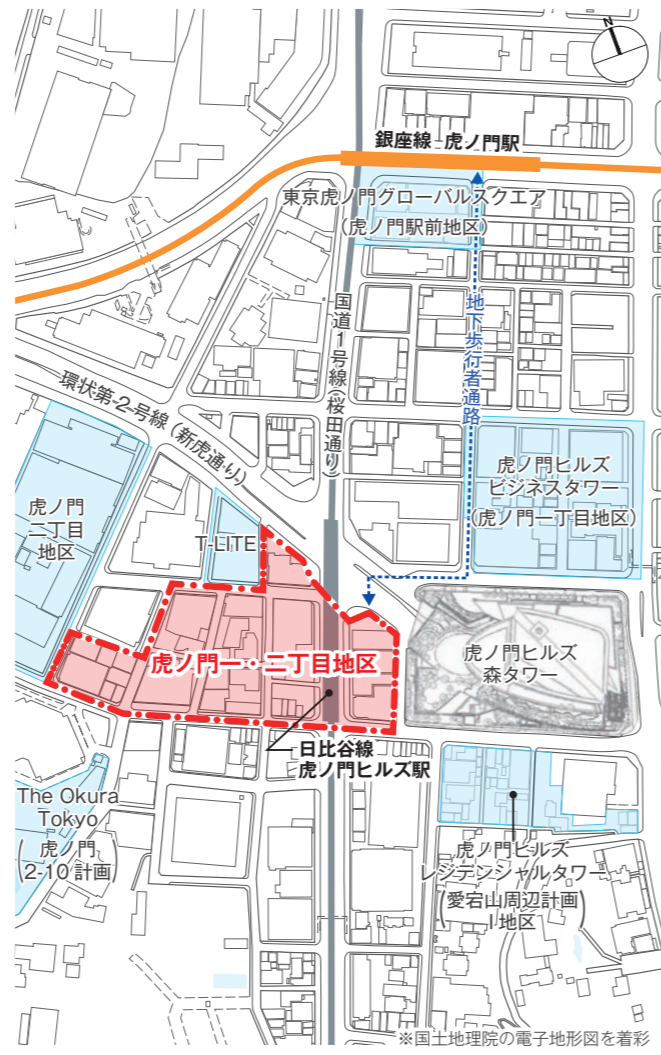
当地区では、細分化された小規模な街区により形成された市街地環境が広がっており、快適な歩行者空間や公園等が不足しているほか、老朽化した建物や幅員の狭い道路が多く、防災上の危険性が懸念されていました。

このような状況のなか、2014年より地権者によるまちづくりに関する勉強会を重ね、2016年に再開発準備組合を設立し、再開発の実現に向けて取り組んできました。2018年3月には、国家戦略特別区域法に基づく「国家戦略都市計画建築物等整備事業」として内閣総理大臣の認定を受け、2018年11月には、東京都により、市街地再開発組合設立が認可されました。

周辺においても、日比谷線虎ノ門ヒルズ駅の整備とともに、複数の地区で大規模な再開発が検討されています。かねてからビジネス街として発展してきた虎ノ門エリア。日本を代表するビジネス拠点として、さらなる発展が期待されています。



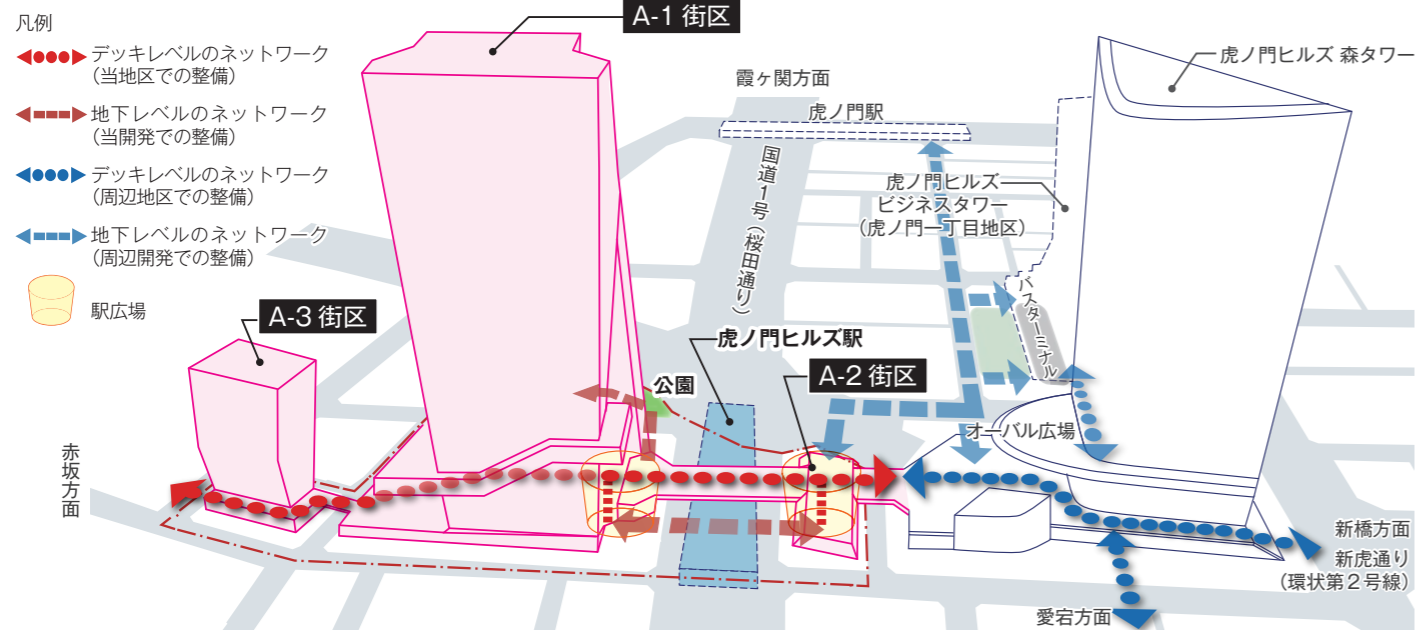
当地区の従前の様子



事業の目的

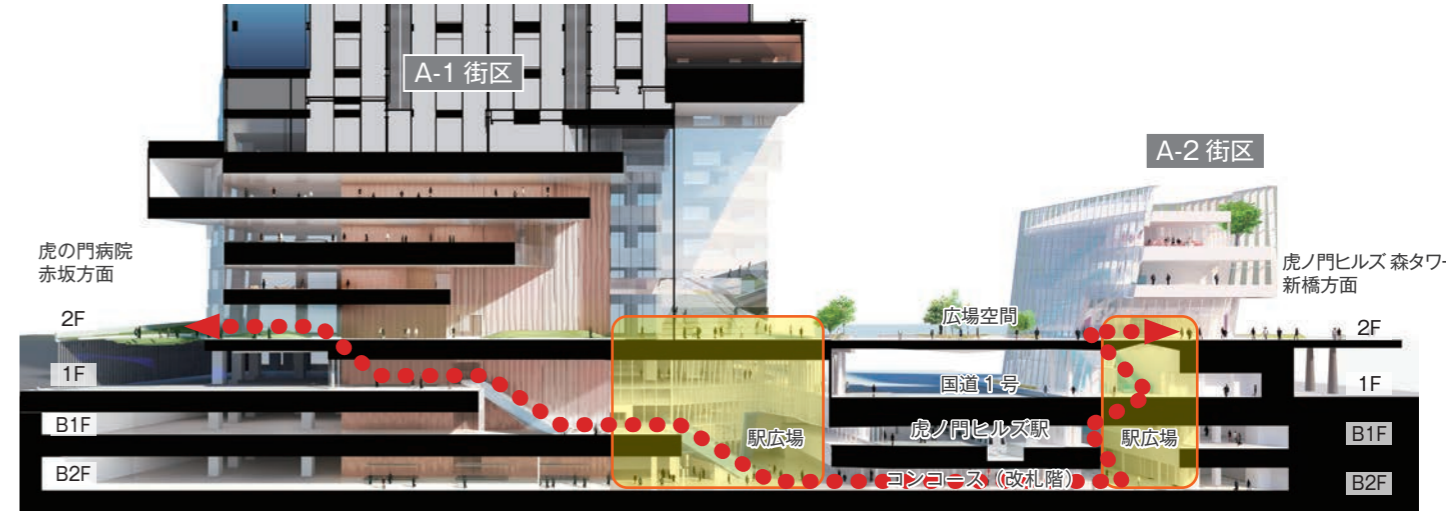
当事業は、日比谷線虎ノ門ヒルズ駅整備と一体となった都市再生事業です。駅とまちが一体となった駅広場(交通結節空間)や、周辺開発と連携した地上・地下・デッキレベルの歩行者ネットワークを整備するとともに、多様な都市活動を支えるまとまりのある広場空間を創出します。また、虎ノ門エリアの新たな象徴となるビジネス発信拠点や、国際ビジネス拠点に相応しい国際水準のホテル、公園および赤坂・虎ノ門緑道を整備するとともに、先進的で効率的な設備の導入等による環境負荷低減を図ります。

これらの取り組みにより、世界都市東京の国際競争力向上に貢献することを目指します。



虎ノ門ヒルズ駅整備と連携したまちづくり

虎ノ門ヒルズ駅や周辺の開発と一体となってまちづくりを進め、駅とまちをつなぐ立体的な駅広場(交通結節空間)や、地上・地下・デッキレベルの歩行者ネットワークを整備し、都市基盤の強化・拡充を図ります。



駅広場(交通結節空間)

高さ約20m、広さ合計約2,000㎡の大空間。新たなまちのシンボルとなる駅広場が生まれます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd.

デッキ空間

周辺の開発をつなぐ歩行者ネットワークの機能と、多様な都市活動に対応可能な広場機能を兼ね備えたデッキ空間を整備します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd.